

IMPERIAL JAPANESE ARMY TYPE 94 6-WHEELED TRUCK "CANVAS TOP"

帝国陸軍

1:35スケールプラスチックモデル組立キット KIT No. FM31

九四式六輪自動貨車 幌型運転台(キャンバストップ)

HOY KITS LABO.
FineMolds

実車解説 組立説明は4ページより

※当解説書の無断転載を禁じます。

■陸軍と自動車

19世紀後半にガソリンエンジンを動力とした自動車が発明され、我が国でも明治末期には少数ながら輸入が始まった。とはいえ高い輸入価格と当時の低い経済水準では一部の自家用車に限定され、明治42年の警視庁登録自動車台数は僅かに62台であった。この状況下、日露戦争直後の陸軍では輸送用とする自動車の可能性について論議が始まっていた。明治40年(1907)2月にフランス・ノーム社のトラックを輸入し調査研究が始まり、この結果に基づき明治43年5月に大阪砲兵工廠で自動貨車(トラック)の試作が始まった。翌年5月に1号車が完成、続けて7月には東京砲兵工廠で2号車も完成し、両車は「甲号自動貨車」として試験を続けた。陸軍は明治45年6月より軍用自動車調査委員会を設け自動車の試験研究をおこない、編制、運転手養成、民間向け自動車製造の奨励や利用に至るまでの調査研究を進めた。

大正3年(1914)、第1次大戦勃発に日本は連合国として参戦。中国・青島におけるドイツ軍攻路に向け甲号自動貨車の改良型である丙号自動貨車4輛を初の自動車隊として派遣した。短期間の作戦で貴重な体験を得ただけでなく、その後の自動車運用に向けた調査研究へとつながっていった。続く大正7年のシベリア出兵では第1/第2自動車隊が編成派遣され、作戦全期間を通じ100輛余りが直接戦闘任務や輸送警備任務に従事。実戦における自動車部隊の真価を初めて発揮することとなった。

陸軍は大正7年に軍用自動車補助法を制定。民間における自動車の保護育成を図るが、諸々の事情でその成果は遅々として捗らなかった。

14年5月より第2次軍備整理(宇垣軍縮)により4個師団が廃止となる。その半面で軍の近代化が図られ新たに戦車隊、航空部隊が設けられることとなった。当然として陸軍の自動車研究も近代化されることとなり、同月より陸軍自動車学校が開設され教育・開発などが一本化され効率化が図られていくこととなった。

■九四式六輪自動貨車の開発

大正から昭和の初めにかけて、陸軍は国産車の保護育成にあたりと同時に、軍専用車輛の開発を民間メーカーに委託していった。東京瓦斯電気工業、石川島自動車製作所、ダット自動車などがこの保護育成/依頼を受けた。この頃の自動車工業は資本力も大きくなく、高い性能を有する外国車には太刀打ちできない状況だった。

このため今後の国内自動車製造が国策として育成すべく、軍が大きく関わっていった。

満州事変での自動車部隊の活動結果を踏まえ、陸軍は今後の兵站で主力となるべく軍用標準トラックの計画を自論む。それに先立ちます国内の弱小な自動車会社を統合していく必要があると考えた陸軍は、商工省(現在の経済産業省にあたる)ならびに大蔵省と協議の上で石川島とダットの2社を合併させる仲介をとり、昭和8年3月に新会社「自動車工業(株)」が誕生した。

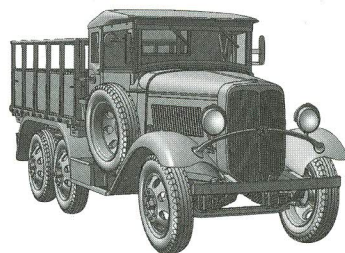
新型トラックの研究開発には陸軍自動車学校の前野四郎中佐が主任となり、エンジン、ボンネット、ステアリング周り、前車軸などの前半部を自動車工業(株)が担当。後半のサスペンション、リアアクスル等は東京瓦斯電気工業(株)自動車部が分担した。当時、商工省から民間向けの標準形式自動車開発の要望があり、両社による民間標準トラックが作られていた。陸軍の新型トラックにはこの標準形式の部品が多く使われ、信頼性と量産性を加味したものとなった。試作完成は瓦斯電側の社内呼称「ちよだ」JM型が昭和7年、自動車工業の「スミダ」U型が翌年6月であった。両車の完成時期に隔りがあるのは、共通部品以外の箇所それぞれ独自の部品を開発使用したことによると思われる。

本車は品質管理基準において民間用のそれとは一線を画するものであった。優秀な輸入車に対抗するため部品の一つ一つが吟味され、まさに採算度外視の物であったという。完成車は路上テストを2回、合計400キロを実走行したのちに引き渡された。

陸軍自動車学校における試験は完成直後の昭和8年6月から行われ、1年後の昭和9年7月まで続けられた。11月には陸軍技術本部に研究が移管され、ここでは実施部隊での実用試験が行われた。結果として「性能おおむね良好なるも、製造会社2社における部品の互換性と機能性の改善をもって実用に耐えうる」との判定がなされ、昭和12年2月に九四式六輪自動貨車として制式上申がなされた。

同年4月9日に自動車工業と東京瓦斯電気工業自動車部とが合併。東京自動車工業(株)となり、これで軍用保護自動車の製造メーカー3社が名実共に一体化したことになった。

※同社は昭和16年4月に「ディーゼル自動車工業(株)」と改称し、戦後の昭和24年7月に「いすゞ自動車(株)」となって現在に至る。いすゞ自動車は自社の創立記念日を、前身となる東京自動車工業の創立日である4月9日に定めている。



■九四式六輪自動貨車のメカニズム

九四式六輪自動貨車は全6輪のうち後ろ4輪を駆動する型式である。サスペンション構造は全てリーフスプリング方式。これは現在の中・大型トラックも一部を除き同様である。

ブレーキシステムは油圧ブレーキと異なり機械式のドラムブレーキで、後軸4輪のみに装備し前輪には無い。現在の目から見ると何とも不安であるが最高速度60km/hのトラックなのでこれでも制動力は充分であった。エンジンは社内ではX型と呼ばれる排気量4390cc、6気筒サイドバルブ(68馬力/2800回転)の商工省標準型。軍用となる本車の場合は点火方式をマグネット式に変更しXA型と称して使用した。昭和13年にはDE4型ディーゼルエンジンが試作され、後に排気量5100ccのDA40型(90馬力/2600回転)が制式化。これを搭載したものを乙型とした。

本車のデファレンシャル機構には特徴的な点がある。通常の車であればプロペラシャフトとデフはベルギア(傘歯車)で噛み合っているが、本車の場合ウォームギアを用いてさらに減速している。これは最高速度が高く設定できないという欠点があるが、牽引力が大きくなるため軍用車両としては最適の構造であった。燃費は3.1km/lとあまり良いとは言えないが、軍用では致し方ないとも言えよう。

■ノモンハン事件と自動車連隊

昭和14年(1939年)5月より9月にかけて戦闘がおこなわれたノモンハン事件は満州とモンゴルにおける国境紛争であったが、満州側の実質兵力である日本陸軍にとって、この戦闘は中国国内で経験してきたそれまでの戦闘とは比較にならない、初めて経験した近代戦であった。

昭和12年頃まで日本陸軍が常識としていた兵站距離の最長限度は、集中および兵力補充、作戦資材の補給輸送も含め鉄道沿線の基地から200~250km内外としていた。それ以上に及ぶ場合は距離が延びるほど困難性が増大し、特にその付近一帯が不毛地となれば大兵力の展開は不可能に近いと考えられていた。

ノモンハン事件での戦場は日本の策源地ハイラルから約200km、ソ連軍は満州里支線の沿線ボルジャから約750kmの地帯である。そのため参謀本部も関東軍も、ソ連軍が持つ戦略機動力の実態にまでは考えが及ばず、彼らが基地から遠く離れたノモンハンに大兵力を投入するなど無理であろうと判断した。この先入観から敵情判断を誤り、8月下旬に至りソ蒙軍大攻勢が始まる3日前まで自軍兵力が敵に対して不足しているなどと思わなかった。

とはいえ、1個師団以上の部隊が展開するノモンハンまで200kmに渡る補給は従来の馬匹では無理であり、自動車輸送に頼る他はない。しかしこの戦闘で展開する第23師団が有する自動車部隊は1個中隊のみであったので、関東軍から自動車連隊が増派されることとなった。主要部隊と部隊長は

自動車第1連隊	河根良賢大佐
自動車第2連隊	菱田彦吉中佐
自動車第3連隊	甲斐隆之助中佐
自動車第4連隊	田坂専一大佐
輜23自動車中隊	相馬誠次大尉
輜7自動車中隊	野村典夫中尉
野戦重砲第3旅団輜重隊	真砂野圭中佐

この他8月以降には

- 関東軍自動車隊司令部 森永武雄少将
- 北支方面から転用の兵站自動車中隊
- 内地で徴用・動員された自動車中隊
- 満鉄から徴用された原田自動車隊(300輜)

が増強された。内地及び満鉄(南満州鉄道)からは車輛のみならず運転手も軍属として徴用され、満鉄からは所属運転手を指揮管理するため管理職社員までもが動員された。

当初これらの部隊は第一線に所属、または配属部隊を除き先任の自動車第4連隊長 田坂大佐が統一指揮を執るが、8月中旬からは関東軍自動車隊司令部 森永少将が到着し指揮を執った。

兵站末地を主戦場より約30km後方の將軍廟に設置し作戦部隊の後方支援に当たるが、作戦末期には2000輜以上のトラックが兵站線上に展開した。平均して100m間隔でトラックが常時走行することになる。もっとも道程は大草原で、単独の道路と異なり車輛の併走も可能で渋滞する事は無かった。

当時の日本人にとって自動車とはとても高級・希有な存在であり、地方の町村には数えるほどしか存在しなかった。この補給線における車輛の密度は我々が受ける感覚とは全く異なった、彼らにとって今までの想像を超える光景であっただろう。これら自動車部隊の昼夜問わない努力によって、前線には毎日1500t以上の物資が届けられた。

ノモンハン付近一帯は広漠不毛の草原であり、砂丘や湿地が点在した。また特に降雨時は道路が泥濘と化し自動車部隊はその行動を著しく制限された。加えて目標となり得る地形・建造物がわずかなために進路・方向の維持に苦労したという。また、第一線部隊に直接補給する場合も多く、優勢な敵の砲火・戦車による攻撃を受けるなど被害も軽視できなかった。もっとも空からの攻撃に際しは比較的分散疎開が容易だったことで、遮蔽物が無い反面で被害を軽減することが可能であった。

■自動車第一連隊

自動車第1連隊はノモンハン事件勃発直後の5月13日に関東軍の命を受け応急派兵が決定、第23師団の指揮下に入った。連隊は事件当初4個中隊と材料廠(いわゆる整備中隊)で構成され、九四式六輪自動車をも主要装備としていた。

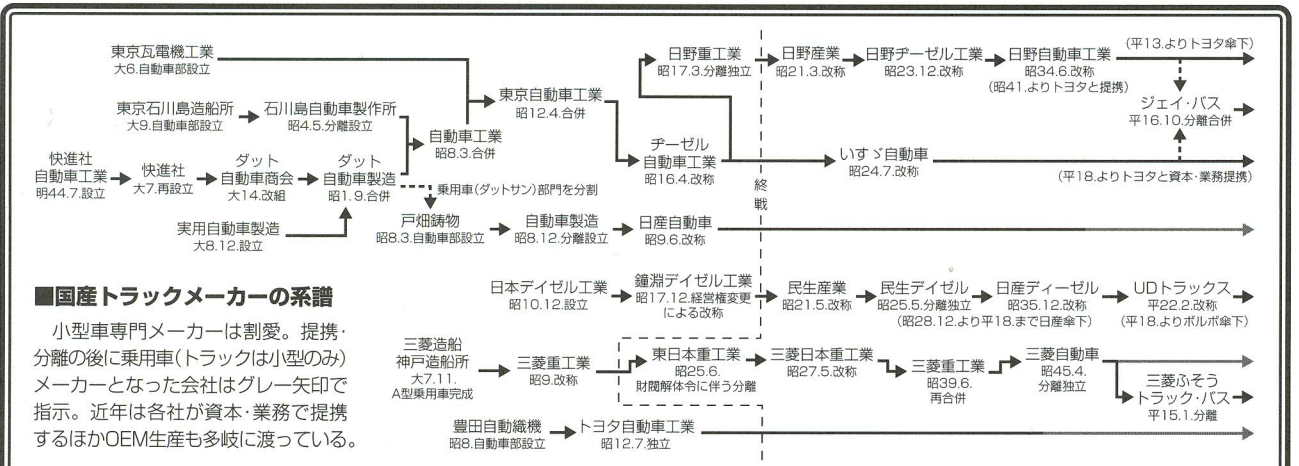
部隊の大部分は6月21日に新京を出発してハイラルに向かい、將軍廟までの物資集積輸送を開始する。6月末までには新たに残留隊員を中心にフォードの新車などをかき集め4個中隊を編成し、さらに2個中隊を増強し最終的には10個中隊を有する大部隊となった。

7月3日から第23師団を中心としハルハ河を渡河し攻勢をかけるが、自動車第1連隊は後方の補給のみならず、架橋資材の輸送、また、歩兵を載せて乗車攻撃部隊としても活躍する。しかしハルハ河の渡河点は車橋の強度不足によりトラックは荷物を積んだまま渡ることができず、全ての積載物を一旦降ろし別個に渡らなければならなかった。このため渋滞が発生し河畔の窪地には後続部隊が充満した。

ハルハ河を渡った自動車第1連隊の一部は、ソ連軍第11戦車旅団のBT-5戦車の攻撃を受けるも渡河した友軍歩兵部隊の支援および輸送任務につき、翌日の撤退時には破損車両を牽引して渡河点を渡り連隊主力と合流した。この後部隊は9月の停戦まであらゆる補給物資の輸送を担当し、燃料弾薬はもとより兵員輸送、食料、水などの多岐にわたって運んだ。興味深いものではサイダーの輸送などもあった。将兵の喉を潤す甘味料ではあるが、同時に敵戦車に対抗する火炎瓶の材料でもあった。

■主要諸元

自重	3500kg
全長	5400mm
全幅	1900mm
全高	2700mm
最低地上高	280mm
ホイールベース	3350mm (前軸～中央軸)
トレッド	前 1500mm 後 1450mm
エンジン	サイドバルブ6気筒 4390cc
最高出力	68馬力/2800回転
最高速度	60km/h
変速機	前進4段 後進1段
渡渉水深	400mm
最小回転半径	6500mm
燃料タンク容量	100リットル

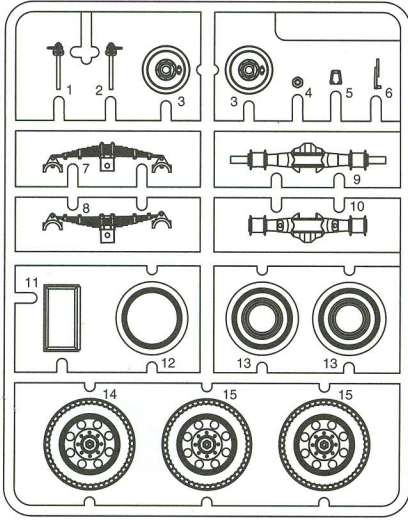


参考：自動車第一連隊史(自動車第一連隊史編纂委員会編) いすゞ自動車史(いすゞ自動車株式会社社書・刊 昭和34年) 国産トラックの歴史(中沖 満+GP企画センター著・グランプリ出版刊) 月刊ホビージャパン1975年3月号/1976年4月号(五十嵐 平達+大塚 康生両著の記載より) 日本軍機甲部隊の編成・装備(1) [改訂版] (ガリレオ出版刊 2009年)

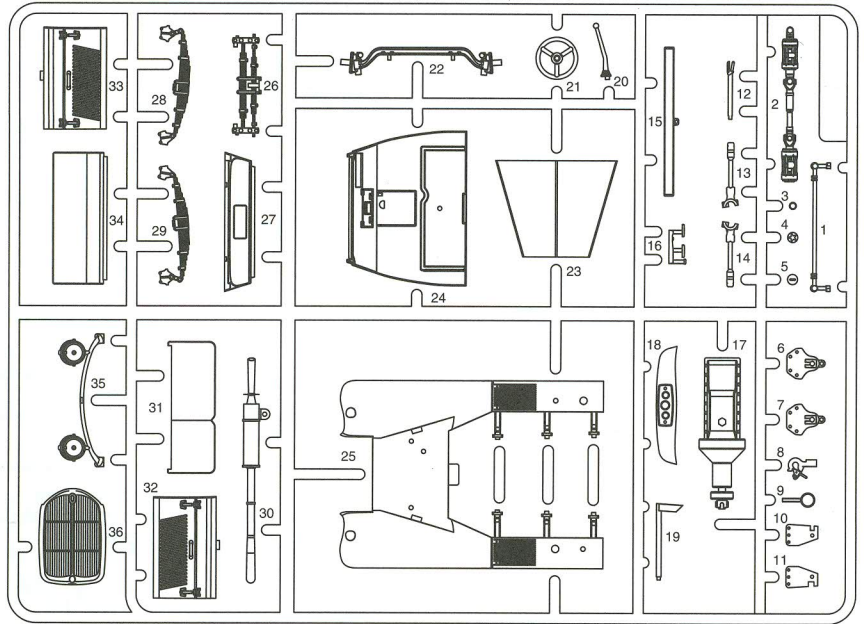
パーツリスト

パーツを切り離す前に、下の図と各ランナーを見比べ、パーツの不足や破損がないかを確認してください。

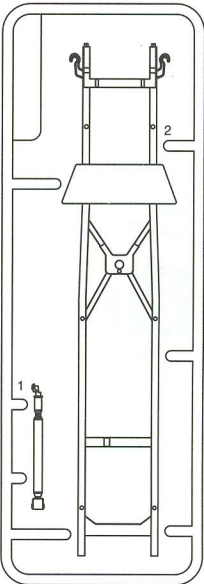
A ランナー Tree x2



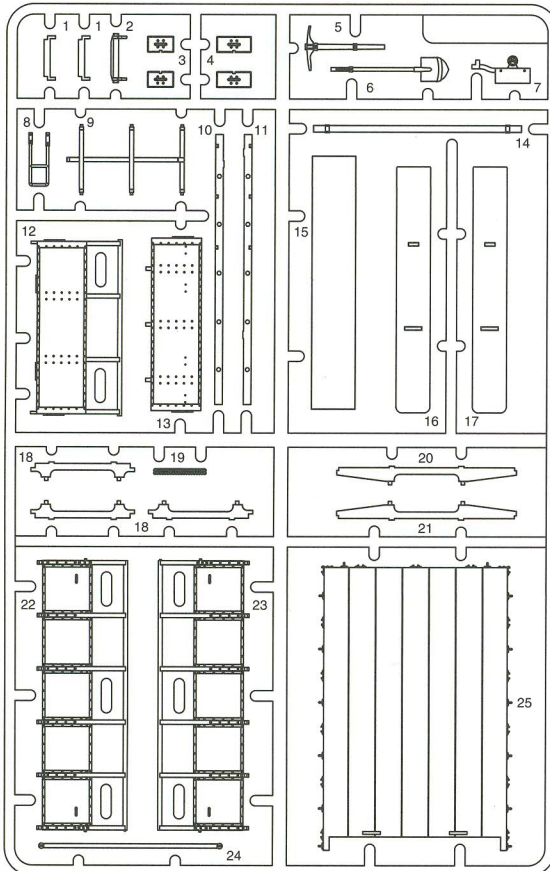
B ランナー Tree



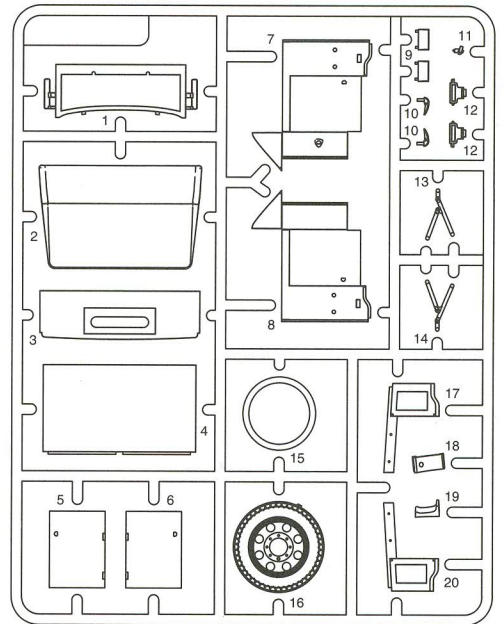
C ランナー Tree



D ランナー Tree

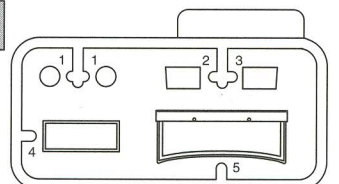


F ランナー Tree



H ランナー Tree

※透明パーツ
Clear Parts



※製造には万全の注意を払っておりますが、万が一製造上の不良部品が内包した際にはご購入月日とご購入店様名をお書き添えの上、不良部品のみを郵便にてお送りください。
(製品すべてをお送りいただく必要はございません)送料分の切手と代替部品をお送りします。 〒441-3301 愛知県豊橋市老津町的場53-2 (有)ファインモールド

作る前にお読みください

- この製品は組み立てモデルです。あらかじめ本説明書の全行程に目を通し、組立説明書の行程ごとにイラストを参考にして、部品の接着位置を事前に確認しながら組み立て作業を進めてください。
- 本製品には接着剤・塗料は付属していません。プラスチックモデル専用の接着剤と塗料を別途お買い求めください。
- 組み立てには模型用ニッパー、カッターナイフの他、ピンセット、ピンバイス(ドリル刃1.2mm)をご用意ください。小さなパーツの取り付けはピンセットを使い慎重に作業してください。
- 各部の塗装はGSIクレオス社製Mr.カラーの番号を□内の数字で、続けて色名を表示しています。水性ホビーカラーやタミヤカラーを使用する場合は、巻末のカラー対応表を参照ください。

This is an unassembled model kit. Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. Check the glue position before gluing parts with the illustration. Glue and paint are not included in kit.

Also need side cutters, modeling knife, tweezers, and pin vise with 1.2mm bits. Please use tweezers for the installation of small parts and glue it carefully.

Boxed numbers in illustration refer to GSI Creos "Mr.color" paint color numbers. Also check the color reference on the last page.

注意

1. 本製品は玩具ではありません。対象年齢15歳以上の組み立てモデルです。作る前にこの組立説明書をよくお読みください。
2. 部品を取り出した後のビニール袋は、子供が頭から被ったり飲み込むと窒息の恐れがあります。開封後は破り捨ててください。
3. 部品はきれいに切り取り、切り取った後の不要部分や切り取りクズは「プラスチックごみ」として、お住まいの地域のルールに従いゴミとして処分してください。
4. 尖っている部品があります。使用目的以外には絶対に使わないでください。小さいお子様の手の届く所に放置しないでください。
5. 特に小さいお子様のいる家庭では部品や部品切り取った後の不要部、ビニール袋等を誤って飲み込まない様に注意してください。小さなお子さまが倒れている。もしくはは出入りする環境での作業や放置はおやめください。
6. 部品組み立ての際、ニッパー・ナイフ・ヤスリ等を不用意に取り扱うと刃先で怪我をされる恐れがありますので注意してください。
7. 接着剤、塗料を使用する場合は、下記に注意してください。
 - 中毒の恐れがあるので閉めきった室内では使用しない。
 - 引火の恐れがあるので火の近くで使用しない。
 - 接着剤・塗料は目や口に入れない。誤って入れたときはすぐに大量の水で洗い流し医師に相談すること。
8. 工具・接着剤・塗料等を使用する前には、それぞれの説明書に記載された注意事項をよく読み、正しく使用してください。

CAUTION MAKE SURE TO READ INSTRUCTIONS LISTED RIGHT BEFORE ASSEMBLING.

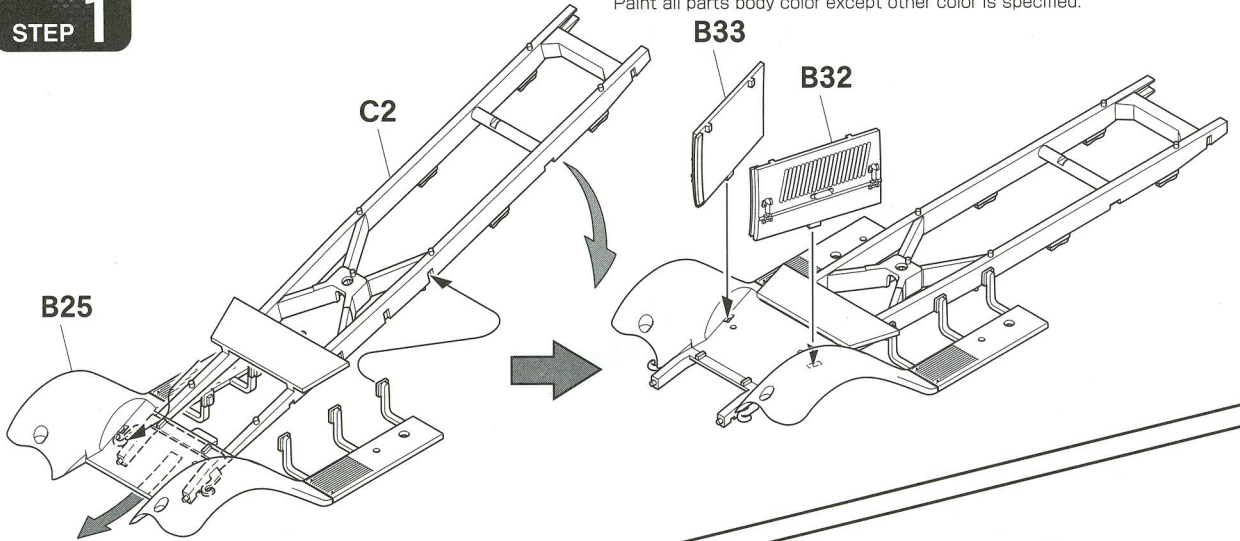
THIS IS NOT A TOY! THIS KIT IS SUITABLE FOR AGE 10 TO ADULT. ADULT SUPERVISOR SHOULD ALSO READ INSTRUCTIONS WHEN ASSEMBLED BY CHILDREN AGED 14 OR YOUNGER.

1. THIS IS AN UNASSEMBL KIT. READ THE INSTRUCTIONS BEFORE ASSEMBL. 2. TEAR UP AND THROW AWAY THE PLASTIC BAGS CONTAINING KIT PARTS AS CHILDREN MAY SUFFOCATE BY SWALLOWING OR WEARING OVER HEAD. 3. CUT THE PARTS OFF PROPERLY AND THROW WASTE PARTS INTO DUSTBIN ONCE. 4. DO NOT PLAY WITH THE PARTS FOR ANY OTHER PURPOSE, AS SOME PARTS MAY BE TOO SHARP. MORE CAUTION AND CARE NEEDED FOR FAMILIES WITH INFANTS. 5. KEEP ALL PARTS OUT OF REACH OF SMALL CHILDREN. CHILDREN MUST NOT BE ALLOWED TO PUT ANY PARTS IN THEIR MOUTHS, OR PULL PLASTIC BAGS OVER THEIR HEADS. 6. WHEN ASSEMBLING THE KIT, TOOLS INCLUDING KNIVES ARE USED. EXTRA CARE SHOULD BE TAKEN TO AVOID PERSONAL INJURY. 7. BE CAUTIONS AS FOLLOWS WHEN USING ADHESIVES AND/OR PAINTS: DO NOT USE IN CLOSED ROOM TO AVOID POISONING/TOXIC. DO NOT USE NEAR FIRE TO AVOID FLAMMABILITY. MISTAKENLY PUT INTO. WASH OUT PROMPTLY WITH FULL WATER AND CONSULT A DOCTOR. 8. READ AND FOLLOW THE INSTRUCTION SUPPLIED WITH TOOLING, GLUE & COLORS, IF USED.

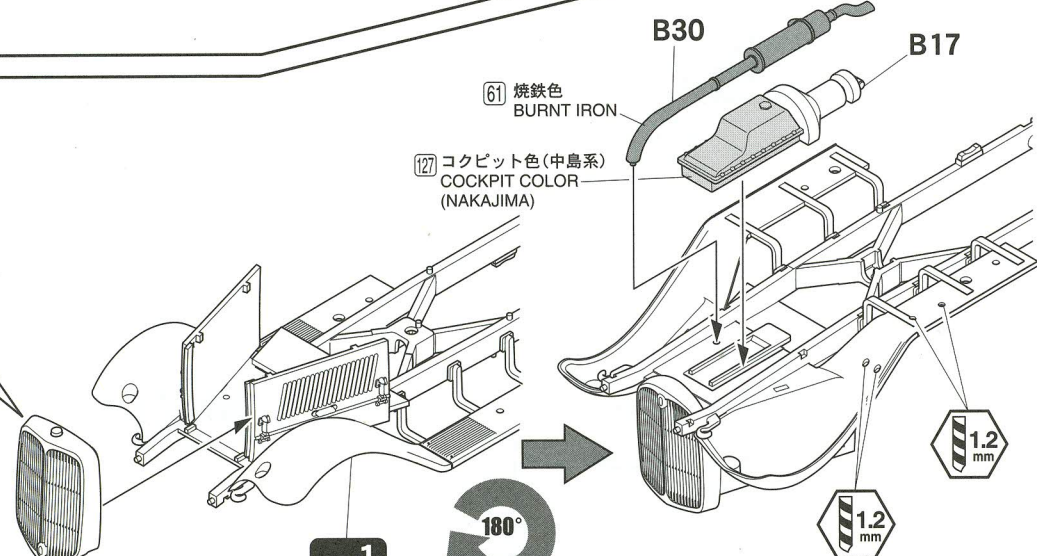
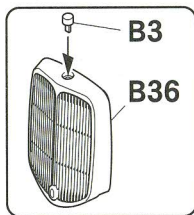


STEP 1

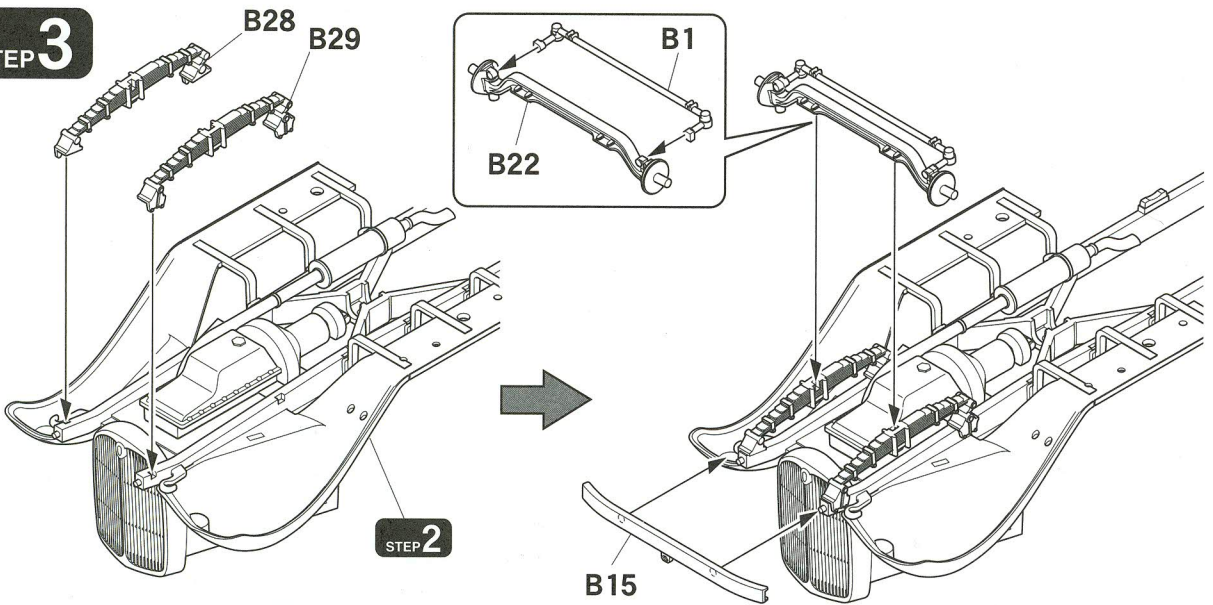
※組立図中で塗装指示の無いものは車体色(GSIクレオス:TC18 陸軍カーキ)で塗装します
Paint all parts body color except other color is specified.



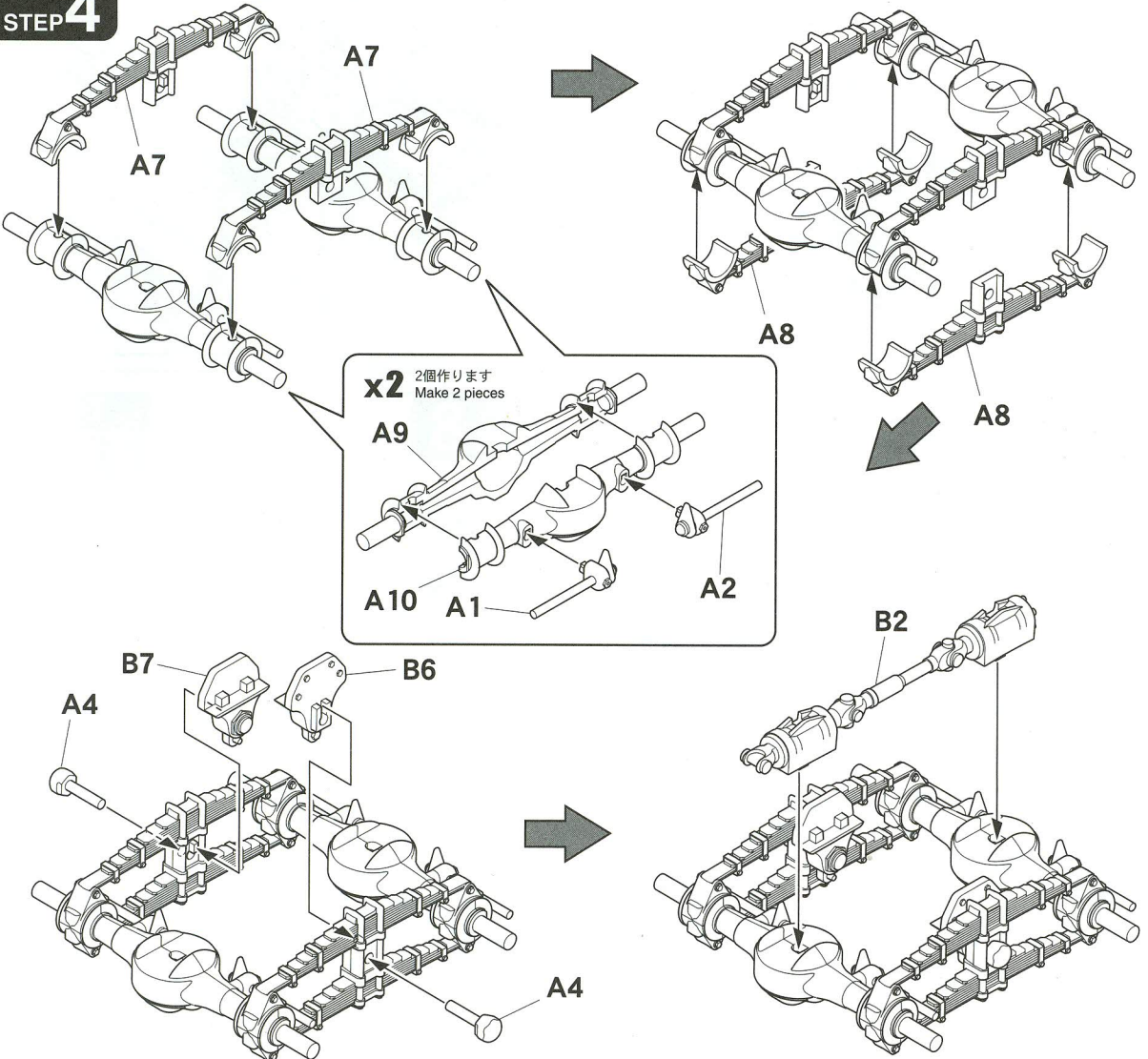
STEP 2



STEP 3



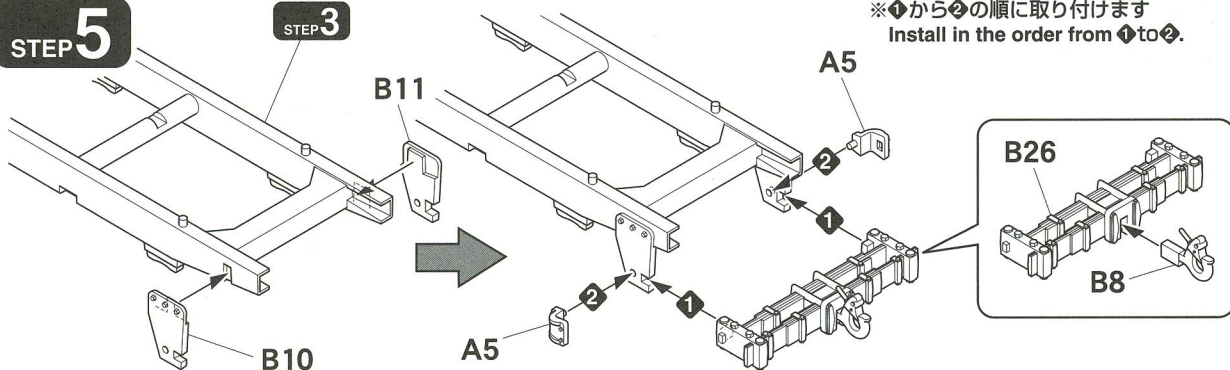
STEP 4



STEP 5

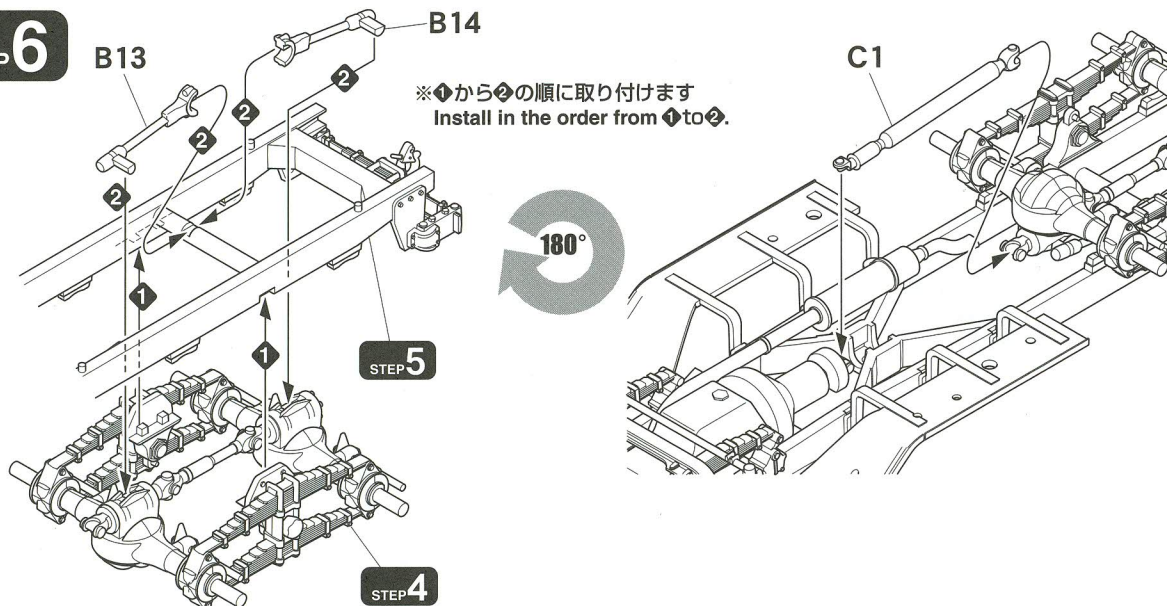
STEP 3

※①から②の順に取り付けます
Install in the order from ① to ②.

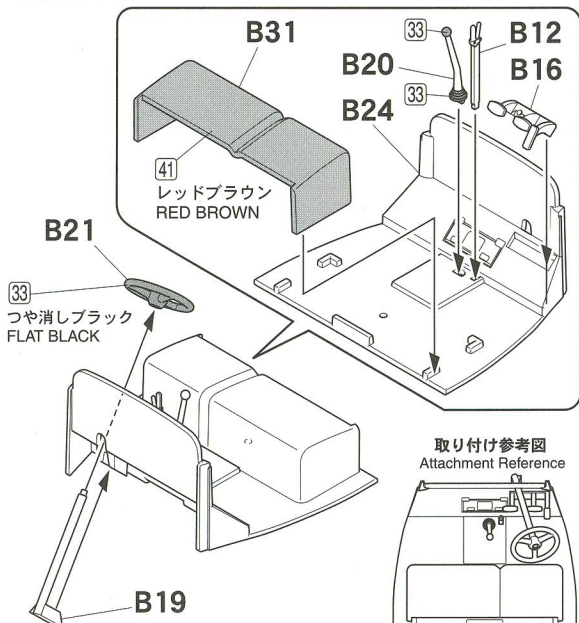


STEP 6

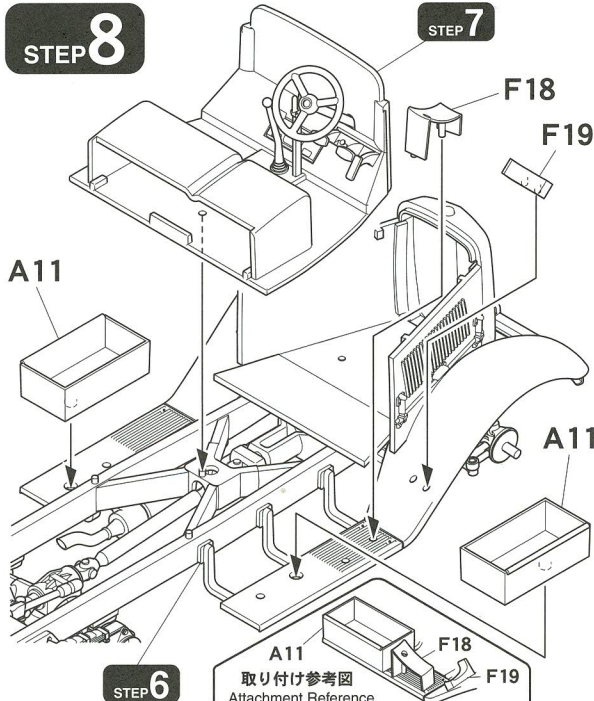
※①から②の順に取り付けます
Install in the order from ① to ②.



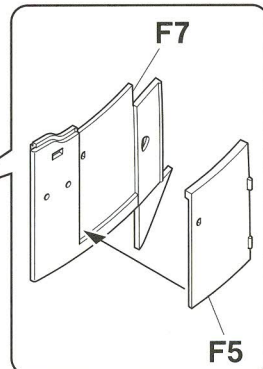
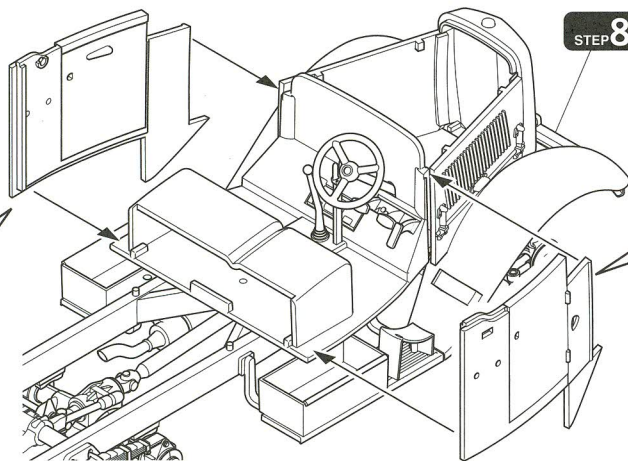
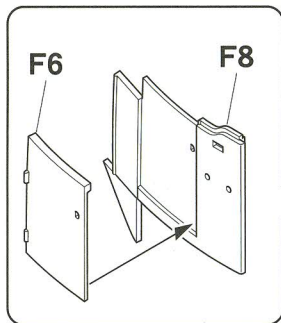
STEP 7



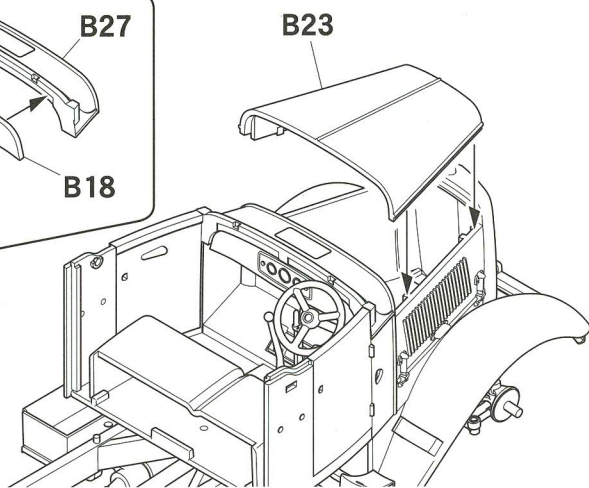
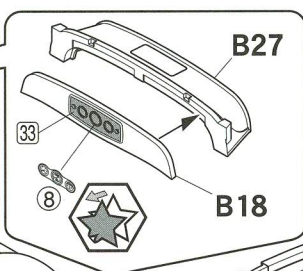
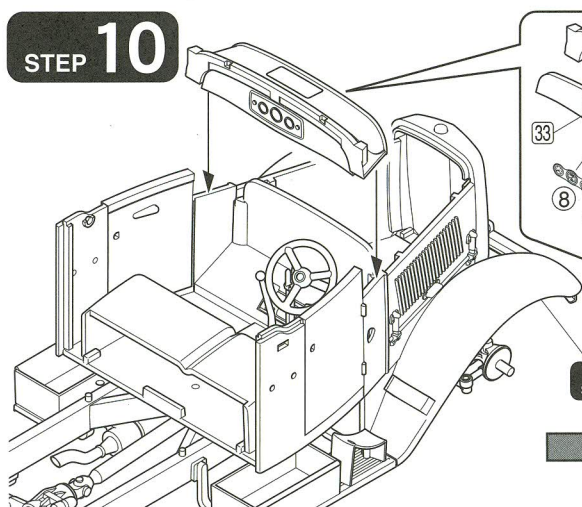
STEP 8



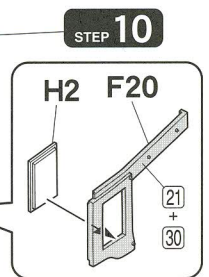
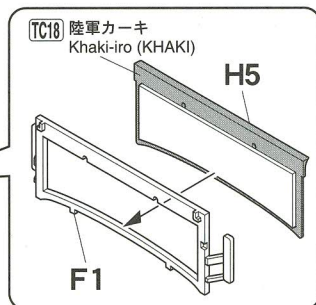
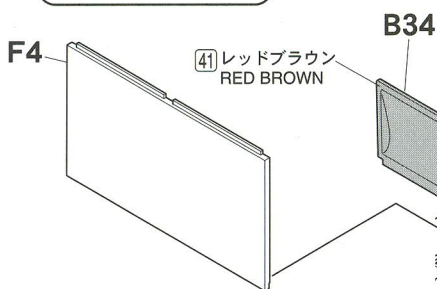
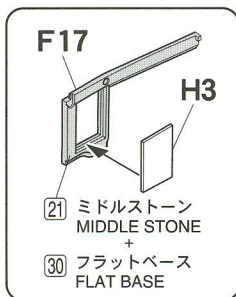
STEP 9



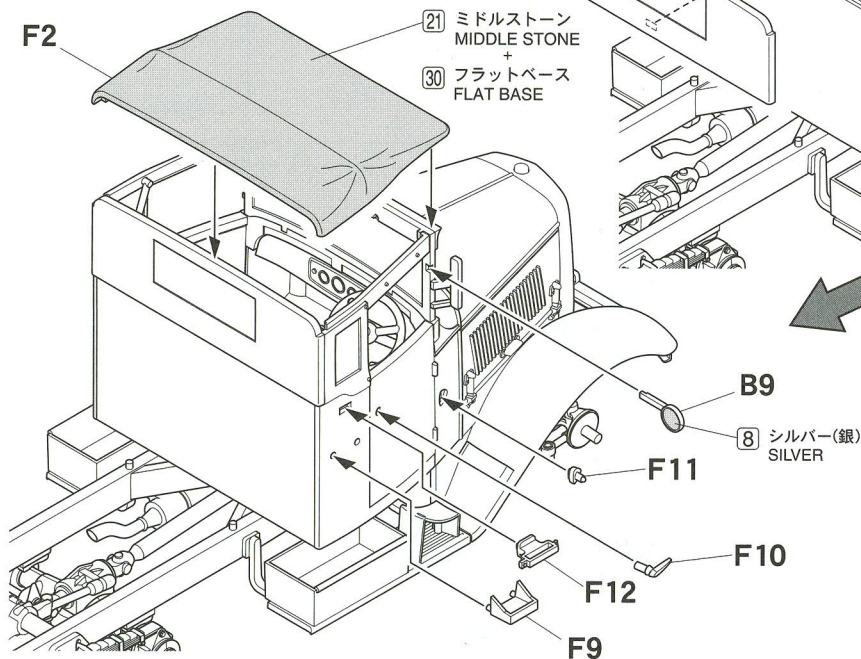
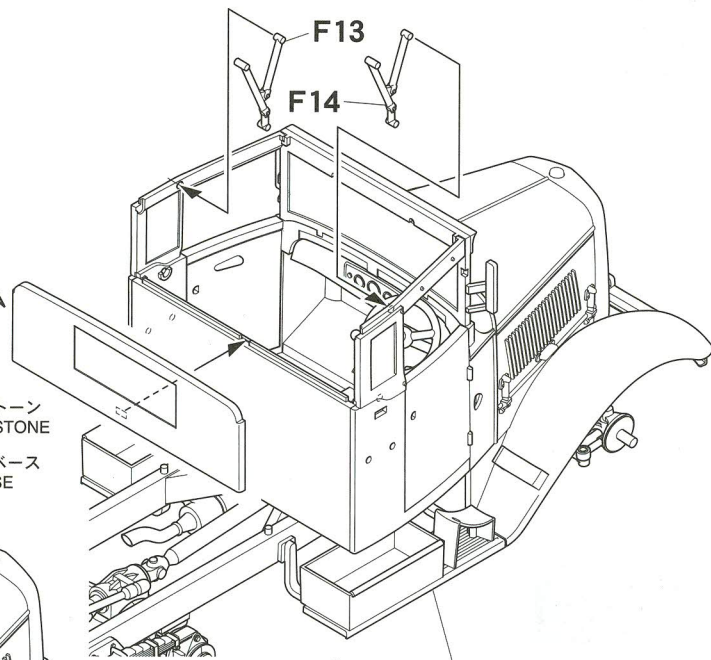
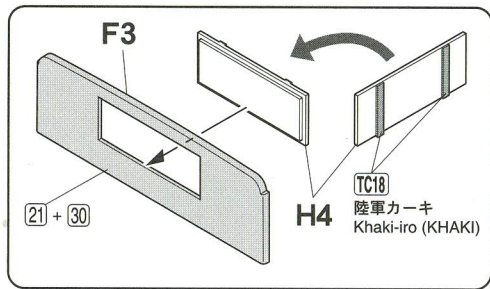
STEP 10



STEP 11

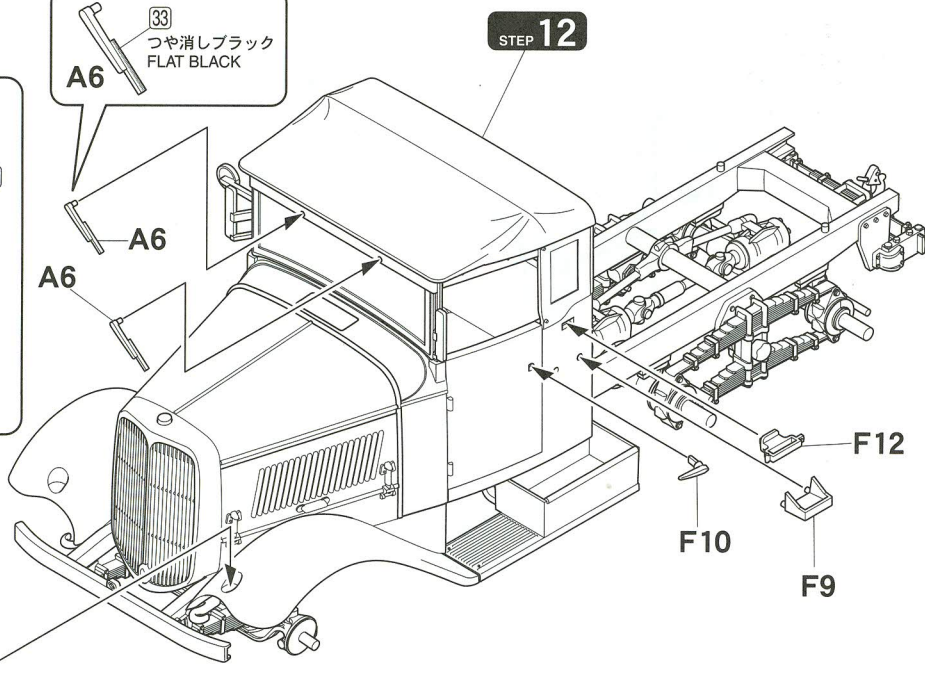
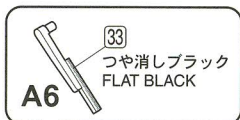
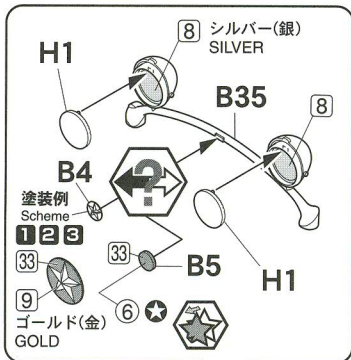


STEP 12

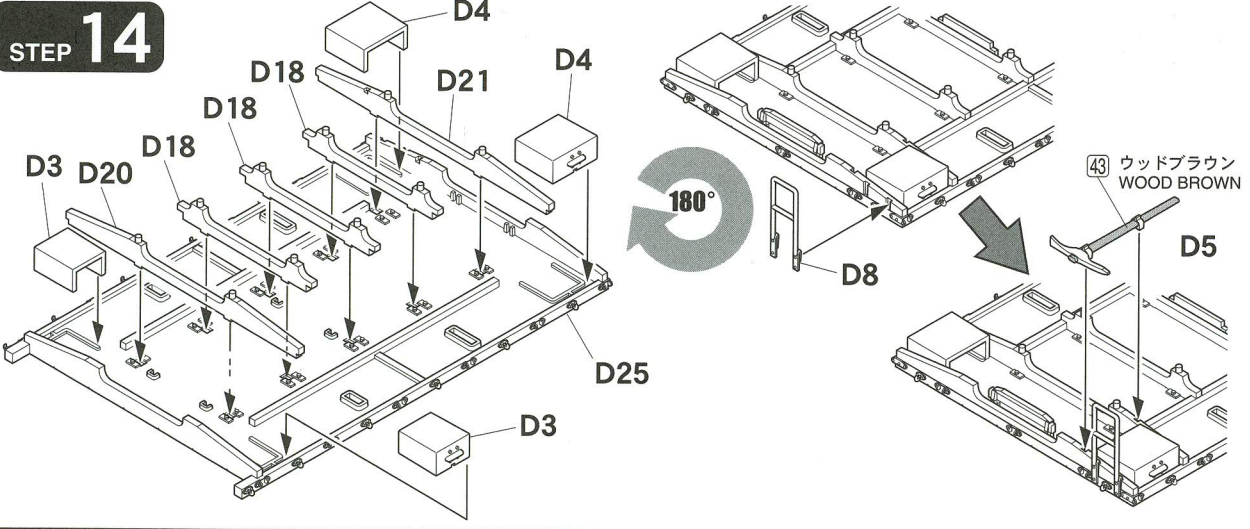


STEP 11

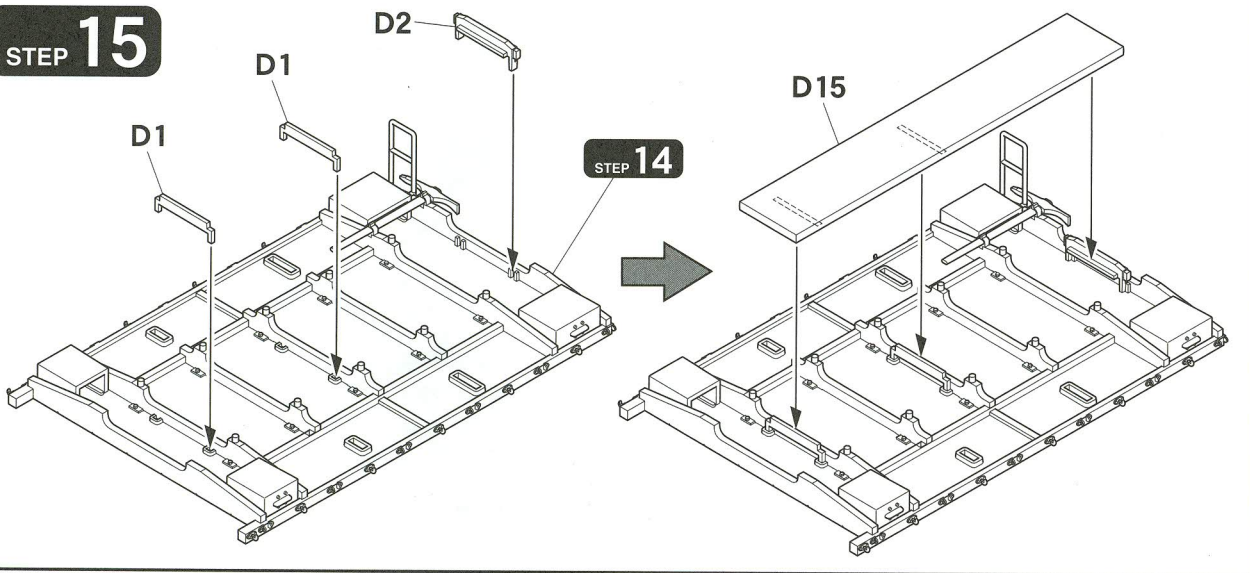
STEP 13



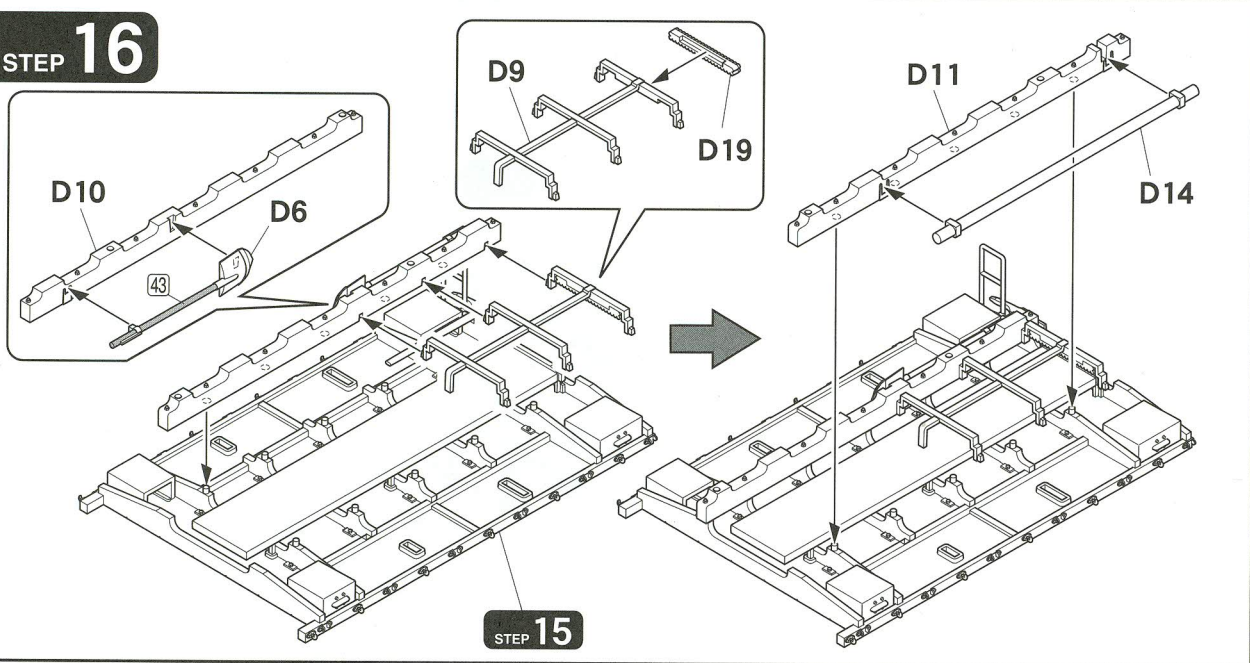
STEP 14



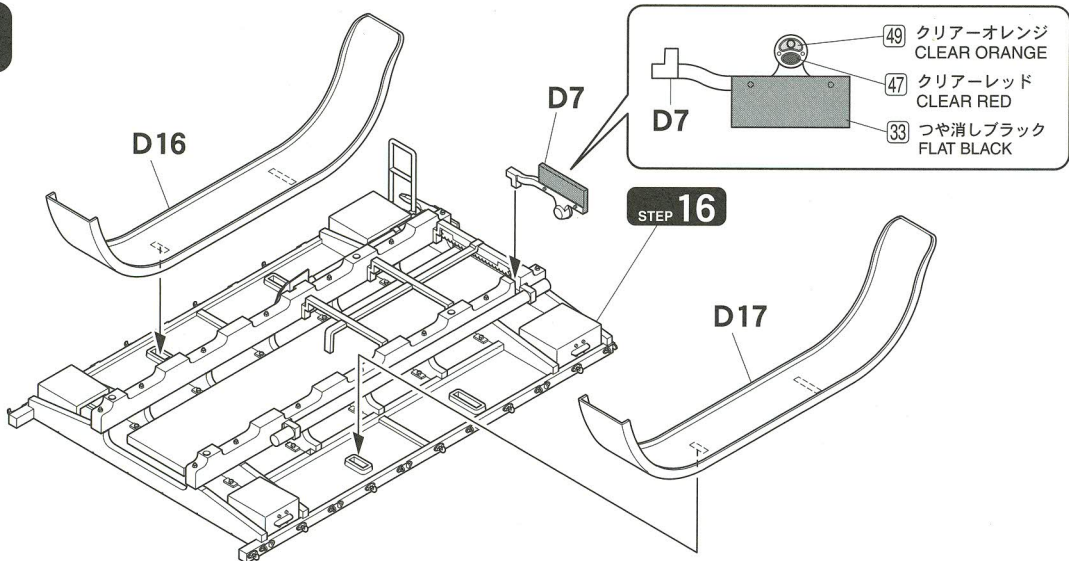
STEP 15



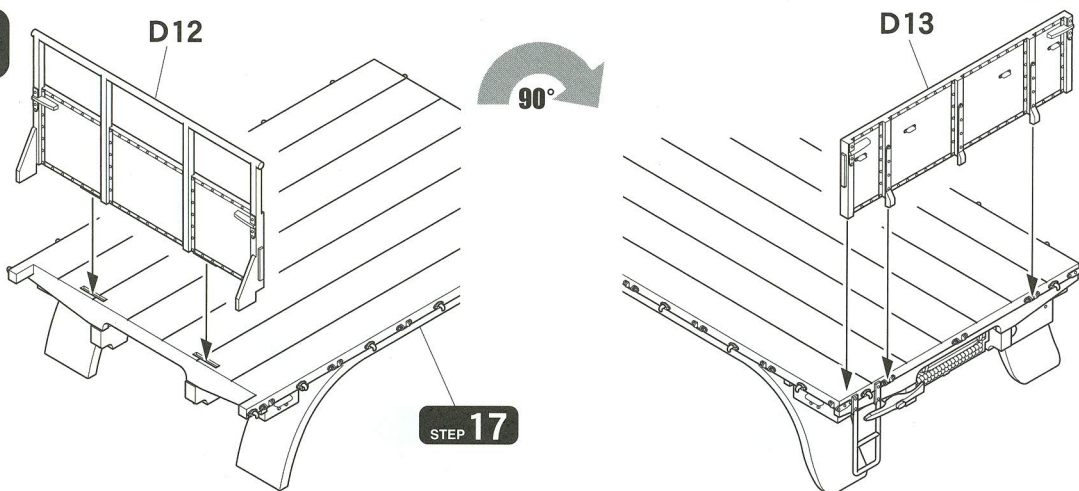
STEP 16



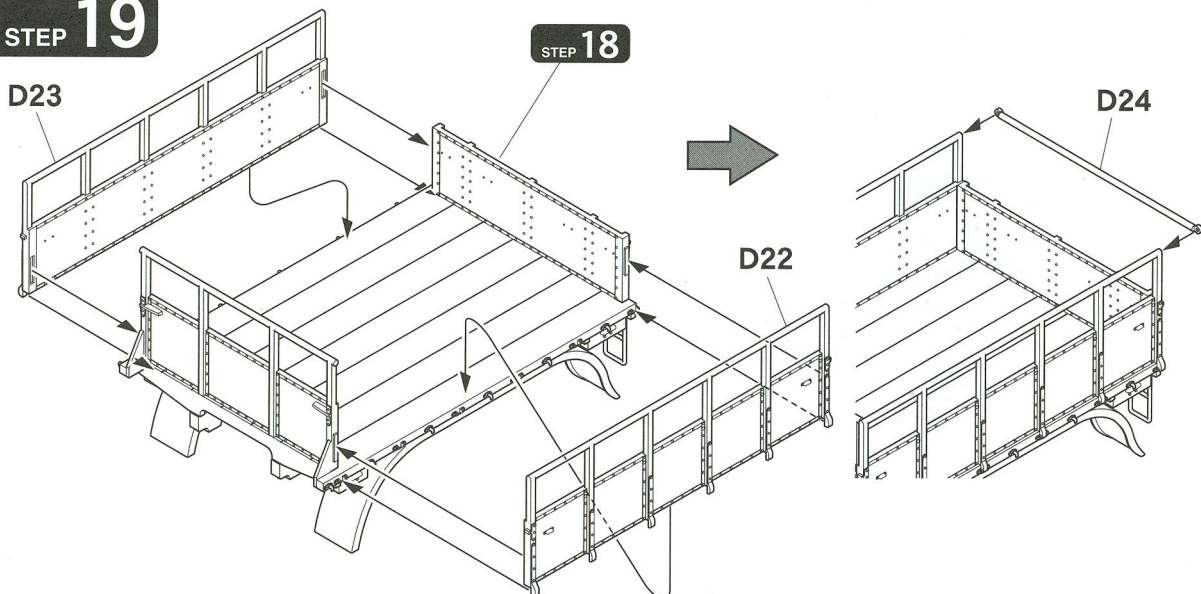
STEP 17



STEP 18



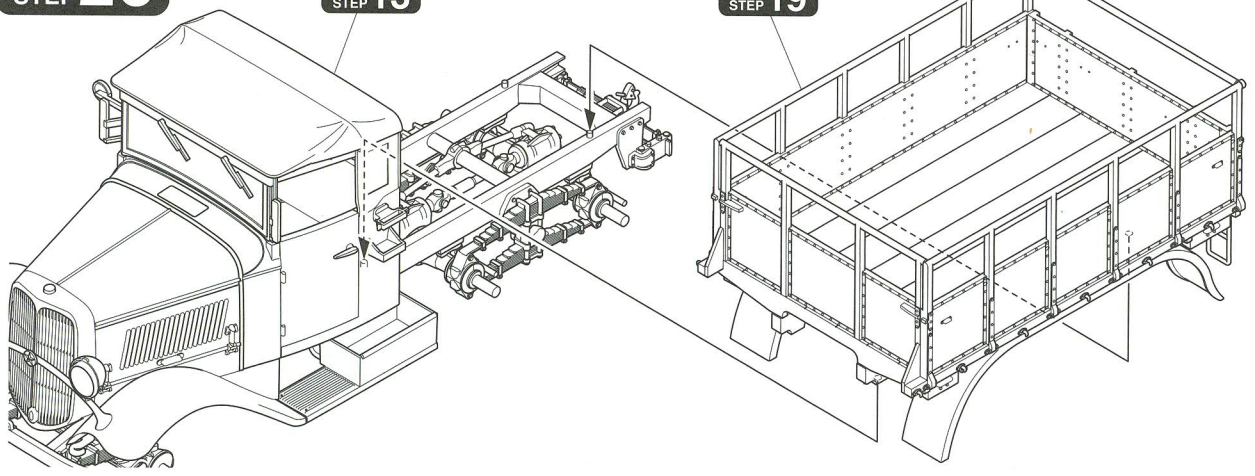
STEP 19



STEP 20

STEP 13

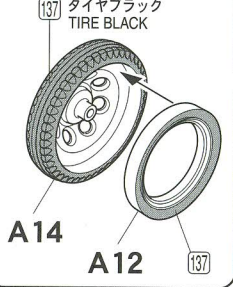
STEP 19



STEP 21

STEP 20

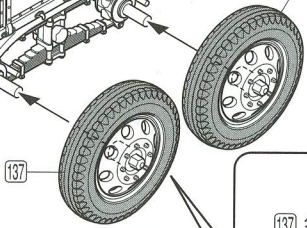
x2 2個作ります
Make 2 pieces



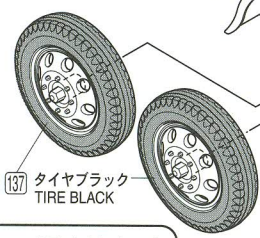
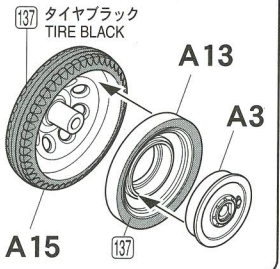
137 タイヤブラック
TIRE BLACK



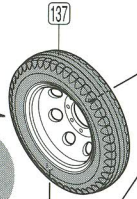
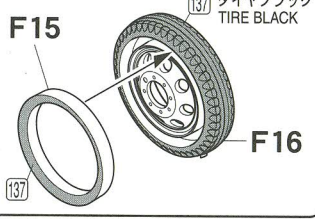
137 タイヤブラック
TIRE BLACK



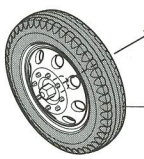
x4 4個作ります
Make 4 pieces



137 タイヤブラック
TIRE BLACK



137



137 タイヤブラック
TIRE BLACK

塗装とマーキング

Painting & Marking

※○で囲まれた数字は付属デカール(水転写シール)の番号です。下記「デカールの貼り方」を参考に、すべての塗装が終了した後に貼ってください。説明書で表記の無いデカールは使用しません。

車体の塗装色はGSIクレオス「Mr.カラー戦車色セット④日本陸軍前期迷彩色」セット内の色を指示しています(下記参照)。細部の塗装はGSIクレオスMr.ホビーカラーの番号を口内の数字で、続けて色名を指示しています。

Bellow indicated colors assort as "Mr. SPECIAL COLOR SET No.4: Tank Colors for Imperial Japanese Army".

(Product No. CS-604 from GSI Creos) Other boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers.

CS604 「Mr.カラー戦車色セット④日本陸軍前期迷彩色」
Mr. SPECIAL COLOR SET No.4: Tank Colors for Imperial Japanese Army

TC18 陸軍カーキ
Khaki-iro (Khaki)

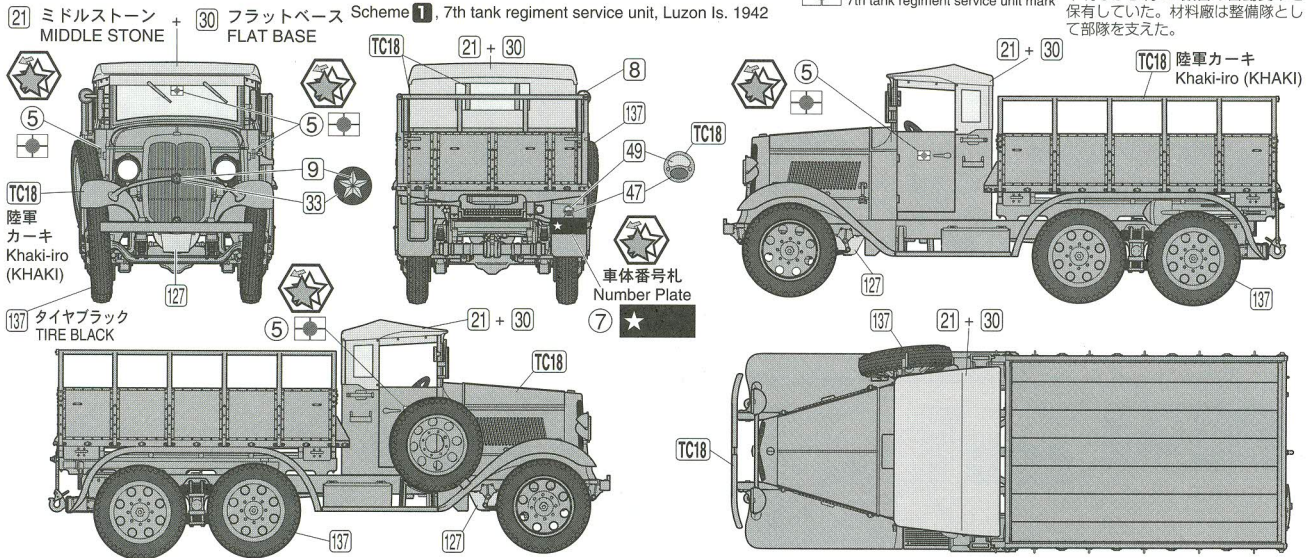
Circle numbers refer to decal numbers. Decals not shown are unused.

塗装例 1 戦車第7連隊 材料廠 昭和17年 ルソン島

Scheme 1, 7th tank regiment service unit, Luzon Is. 1942

戦車第7連隊 材料廠マーク
7th tank regiment service unit mark

※昭和16年9月時点、連隊では車種不明ながら約30数台の自動貨車を保有していた。材料廠は整備隊として部隊を支えた。



塗装例 2 自動車第1連隊 昭和14年 ノモンハン

Scheme 2, 1st Motor regiment, Nomonhan, 1939

車体番号札
Number Plate

210

塗装例 3 独立歩兵第1連隊 昭和12年 山西省

Scheme 3, 1st independent infantry regiment, China, 1937

車体番号札
Number Plate

★ハホ810

カラーナンバー対応表

Color Reference

GSIクレオス・Mr.カラー(口数字)	GSIクレオス・水性カラー	タミヤカラー	ENGLISH	DEUTSCH
8 シルバー(銀)	H8 シルバー(銀)	X11 クロームシルバー	SILVER	SILBER
9 ゴールド(金)	H9 ゴールド(金)	X12 ゴールドリーフ	GOLD	GOLD
30 フラットベース	H40 つや消し剤	X21 フラットベース	FLAT BASE	MATT GRUNDIERUNG
21 ミドルストーン	H71 ミドルストーン	XF59 デザートイエロー	MIDDLE STONE	STEINGRAU, MITTEL
33 つや消しブラック	H12 つや消しブラック	XF1 フラットブラック	FLAT BLACK	MATT SCHWARZ
41 レッドブラウン	H47 レッドブラウン	XF64 レッドブラウン	RED BROWN	ROT BRAUN
43 ウッドブラウン	H37 ウッドブラウン	XF2+XF64	WOOD BROWN	HOLZ BRAUN
47 クリアーレッド	H90 クリアーレッド	X27 クリアーレッド	CLEAR RED	ROT, REIN
49 クリアーオレンジ	H92 クリアーオレンジ	X26 クリアーオレンジ	CLEAR ORANGE	ORANGE, REIN
61 焼鉄色	H76 焼鉄色	XF7+XF56	BURNT IRON	GEBRANNTES BLAU
127 コクビト色(中島系)	H74 スカイ	XF21 スカイ	DUCK EGG GREEN	ENTENEIER GRÜN
137 タイヤブラック	H77 タイヤブラック	XF1 フラットブラック	TIRE BLACK	REIFEN SCHWARZ
TC18 陸軍カーキ(日本陸軍前期迷彩色セット(CS604))		XF49+XF64	KHAKI-IRO (KHAKI)	KHAKI-IRO (KHAKI)

※製造には万全の注意を払っておりますが、万が一製造上の不良部品が内包してありました際はお手数ですがご購入日およびご購入店様名をお書き添えの上、不良部品をご郵送ください。送料分の切手と代品をお送りいたします。

部品を破損・紛失された際は...

紛失・破損などにより部品を請求される方は下記記載の代金(消費税・送料込み)を右記お支払い方法からお選びいただき、当社アフターサービス係(宛先は右下記載)までお申し込みください。なお、いずれのパーツも本カード1枚につき1キット分に限りさせていただきます。製品はその仕様もしくは価格を予告無く変更することがございます。あらかじめご了承ください。

Finemolds ◆部品請求カード Use Only in Japan

製品番号FM31 1/35 九四式六輪自動車 梶形運転台

A(1枚)..... ¥800	F..... ¥700
B..... ¥900	H..... ¥500
C..... ¥500	デカール..... ¥500
D..... ¥1000	組立説明書..... ¥400

ご注文とお支払い方法

●「定額為替」現金書留「銀行振込」にてご送金の場合
下欄の部品請求カードの必要部品を○で囲み、お名前・御住所・電話番号をはっきりと書き添えたメモを同封してお送りください。
銀行振込でのお支払いの場合は、ご注文時にお振込人名も併せてお知らせください。「郵便振替」の場合は払い込み用紙の通信欄に「製品番号、品名、部品枠(ランナー)名、数量」をご記入ください。いずれの場合もご入金を確認次第発送いたします。送料ならびに為替手数料、振込手数料等は別途ご負担ください。なお切手での送金はお受けできませんのでご了承ください。

●代金引換(到着時にお支払い)にてご注文の場合
部品請求カード記載のパーツ代金に代引き手数料300円を加算した金額がお支払いの総額となります。ご希望の製品番号と製品名・部品番号とお届け先をファックスまたはEメールなどでお知らせください。ご注文時にいただいたお客様の個人情報は商品発送および発送記録確認以外の目的には使いません。

■郵便振替口座:
名古屋 00840-2-21475
加入者名:(有)ファインモールド
■銀行振込:
三菱東京UFJ銀行 豊橋支店
普通 5369261
有)ファインモールド

Finemolds

有限会社ファインモールド
〒441-3301

愛知県豊橋市老津町の場53-2
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811

インターネットホームページ

<http://www.finemolds.co.jp>

©2010 Finemolds MADE IN JAPAN